地域子育て支援拠点研修事業＜鳥取開催＞

＜開催概要＞

◆開催日　　2011 年 11 月 6 日（日）　10:00～16:30

◆会場　　米子市福祉保健総合センター「ふれあいの里」

◆主催　　財団法人こども未来財団・NPO 法人子育てひろば全国連絡協議会

◆後援　　厚生労働省・（社福）全国社会福祉協議会・鳥取県・米子市

◆協力　　NPO 法人えがおサポート Leaf＆CHUCHU

◆参加者数　合計 74 名（男 5 名　女 69 名）（行政 31 名　NPO26 名　他団体･企業 11 名　その他 6 名）

＜プログラム＞

■主催者挨拶　財団法人こども未来財団　研修調査部研修事業課　武田久恵さん

■開催地挨拶　NPO 法人えがおサポート Leaf＆CHUCHU　代表理事　中村幸恵さん

◆プログラム１　基調報告　「地域子育て支援拠点事業の概要と展望」

【講師】厚生労働省雇用均等・児童家庭局総務課　少子化対策企画室　計画係長　國松弘平さん

地域子育て支援拠点事業の位置づけや実施状況、子育て支援関係事業の取り組みなどをわかりやすくご説明頂きました。また、子ども・子育て新システムの具体的な仕組みについてもお話しいただきました。地域子育て支援拠点事業は、市町村と連携し、個々の子育て家庭に身近な立場から、その実情に応じた利用者支援の役割を果たすものであることを確認するとともに、多様なニーズに応える新たな地域型保育・子育て支援モデル事業の予算や仕組みについても学ぶことができました。

◆プログラム2　基調講演「地域子育て支援拠点事業における活動の指標『ガイドライン』について」

【講師】NPO 法人子育てひろば全国連絡協議会理事長･NPO 法人びーのびーの理事長　奥山千鶴子さん

まず、地域子育て支援拠点事業のこれまでの変遷をお話しいただくと共に、支援者の役割と、子ども同士の関わり方、親への関わり方についての基本的な心得を学びました。地域子育て支援拠点は、乳幼児期に親子がのびのびと育ち合い、仲間を増やし、悩みを打ち明け、学び合う場であるとともに、親自身が主体となって関わっていく場でもあると話されました。

奥山さん自身が経験されたことや行政との連携方法についても紹介があり、基本的なことに加えて新たに取り入れていきたいことも見い出すことができました。

◆プログラム２　分科会

【第１分科会】　「みんなが集う居心地のよい拠点づくりのために」

【講師】　中西利恵さん　相愛大学教授

【事例報告】　松本寿栄子さん　子育てをよくする会「子育て支援ネット」西部代表

篠田絵里さん　総社市保健福祉部こども課

中西利恵さん

松本寿栄子さん

篠田理恵さん

講師の中西利恵さんより、「みんなが集う居心地のよい拠点」のためには、何が支援として利用者に届くのか、そのためにはどのようにしたらいいのかを参加型で考えてみましょうと話されました。ひろばでの一日を振り返り、明日からの活動に役立てるためには、スタッフで丁寧なミーティングを実施することも大切だと話されました。

松本寿栄子さんは、約 20 年間、保育士として保育園で働かれると共にカウンセリングの勉強を始めたのがきっかけで平成８年から子育て支援センターで勤務されました。公民館を拠点として 26 の子育てサークルを全て作られたそうです。さらに平成17年より、子育て支援ネットワークを立ち上げられ、利用者が子育ての仲間を作り、子育てのスキルを身につけていくということをコンセプトに「子育ての旅」というネーミングで活動をされています。

篠田絵里さんは、現在、総社市保健福祉部こども課で主任として勤務され、地域子育て支援拠点事業等を担当されています。4 ヵ所ある子育て支援施設の利用者は、年齢によって行く施設が異なる傾向があるとのことです。同年代の子どもで遊べるメリットがある一方、大きい年齢のお子さんが年齢の小さい子の利用が多い施設には行きにくいという課題もあげられていました。

その後、グループに分かれ、テーマに沿って、施設の良い面、課題、スタッフや利用者の現状などについて話し合われました。課題解決のためには、地域の理解や協力を得るとともに、行政にも関心をもってもらいながら、居心地のよい拠点作りを目指そうという話し合いがなされました。そのために私たちスタッフと利用者がどのような関わりを持てばよいかを考え、支援の原点となる観察力を磨くことに力を注ぎましょうといったまとめがありました。

【第 2 分科会】　「拠点スタッフの役割、スタッフに求められる力」
【講師】　　奥山千鶴子さん NPO 法人子育てひろば連絡協議会理事長・NPO 法人びーのびーの理事長
【事例報告】中村幸恵さん　NPO 法人えがおサポート Leaf＆CHUCHU　代表理事
赤迫康代さん　NPO 法人子ども達の環境を考えるひこうせん　代表理事

コーディネーターの奥山さんは、スタッフが、ひろばを利用する親子の声を聞き、共に考え、共に作っていくことの大切さについて話されました。そのためにはアンケートなどで利用者の声を聞き、広報紙などを通して丁寧に答えていく姿勢も大切とのことです。

赤迫さん　　中村さん

次に、中村さんが NPO 法人えがおサポートの活動の紹介をし、スタッフと利用者をはっきり区別せず一緒に成長し、作り上げていく良さを紹介されました。

赤迫さんは活動の紹介とともに、ひろばには自分を受け入れてくれる場所を求めてくる方が多いので、スタッフが温かく受け入れる心を持って接することの大切さ、価値観の違いを受け入れ理解することの大切さを語られました。

その後 5 人ずつ 5 グループに分かれひろばのスタッフとして「親への関わりで工夫していること」「子への関わりで工夫していること」を話し合いました。各グループからは“コミュニケーション能力”“信頼関係づくり”“スマイル”などのキーワードが出され、最後に「みんなの子どもをみんなで一緒に育てる文化を利用者と共に作っていこう」とまとめがありました。

【第 3 分科会】「行政と拠点で取り組む子育て支援」

【講師】　中橋惠美子さん　NPO 法人わははネット　理事長

【事例報告】　山口朝子さん　社団法人地域サポートネットワークとっとり　代表理事

木谷邦子さん　大山町地域子育て支援センター・ふれあい会館保育士

【ゲスト】　國松弘平さん　厚生労働省雇用均等・児童家庭局総務課　少子化対策企画室

講師の中橋さんより「NPO 法人わははネット」の歩みについて話がありました。平成 10 年から「地域密着型子育て情報誌」の発行や「携帯電話を利用した子育て情報の配信」などを手掛けられてきましたが、その一方で情報発信だけでは一方通行だと感じるようになってきたそうです。そして情報を双方向で交流交換しながら互いに「育ち合い」「学び合い」「外に出ていく」ための子育ての場所が必要だと感じ、自主事業で子育てひろばをオープンされました。その間、行政と話し合い、市長の所にも出向いて、拠点事業（委託）となった経緯を紹介されました。民間と行政の協働のメリットは柔軟性、迅速性、役割分担などがあるが、これまで競合していた事業を見直すことにもつながると話されました。拠点が親と親、子どもと子どもを「つなぐ場所」として地域に密着し、市民の側に立って活動することで、行政への市民参加が一層進むことが期待できると話されました。

事例報告①　すぺーす comodo 運営事業　山口朝子さん

「すぺーす comodo」の 17 年間の活動を通して、子育てをサポートされてきた実績や行政との関わりについて事例報告いただきました。運営していくためには、ベビーマッサージ、リトミックなどの有料プログラムや託児も実施されていますが、それにより同年齢の子ども同士の交流や親同士のつながりが持て、継続的な安定運営にもつながるというメリットも紹介されました。

事例報告②　大山町地域子育て支援センターふれあい会館保育士　木谷邦子さん

大山町は平成 17 年に 5 つの町が合併しました。「子育てについての第一義的責任は父母その他の保護者にある」という基本理念を掲げ、地域、行政が一緒に取り組んでいます。5 つの町が合併したことで、行政・教育委員会のネットワークが充実したというお話もされました。また町内に 5 つのサークルがあり、親子はもちろん、地域の方、高齢者とのかかわりの場も提供されています。

グループワークは 5～6 名が 4 つのグループになり、自己紹介と日頃の活動紹介をした後、

１．誰のためにどこで実施するか　２．達成目標　　３．成果　　について、個々の意見を出し合いました。

◆プログラム４　全体会

分科会第 1 まとめ

「居心地の良い拠点づくりのために」というテーマで物理的側面と人的側面のふたつのワークを実施しました。支援者として自分たちがどう見られているのかを一歩引いて見ることの大切さや、ＰＤＣＡサイクルに基づいた振り返りを行いながら良いひろばを目指すことが大事だと確認されました。

第 2 分科会まとめ

「親への関わり方」「子への関わり方」について、各グループで意見をまとめて発表がありました。主に「信頼関係を作る」「笑顔で迎える」「安心して利用できる場所を作る」などのポイントが挙げられるとともに、スタッフのコミュニケーション能力の向上や子どもの発達についての知識を深めるとともに、利用者と同等の立場で施設をつくるということを学びました。また、当事者がボランティアとして関わることによりひろばのルールを自然に作りあげていく工夫などが紹介されました。

第 3 分科会まとめ

NPO と行政との協働のメリットなどについて説明がありました。また事例報告をでは、行政直営の支援センターと民間の自主運営のひろば、それぞれの事例を通して広報や連携方法を学ぶことができました。厚生労働省の國松さんからはボランティアから活動を始めたとしても行政と連携していくためにはどのようなことがどれ位の予算でできるのかなどを一緒に考えていくことができたら良いのではないかというアドバイスもいただきました。これからは、第 2 種社会福祉事業として、関わりの質がますます問われますが、すぐに成果がでなくても丁寧な振り返りをすることが大事であり、今日の学びをひろばに持ち帰ってみなさんそれぞれのひろばで振り返りをされるをお薦めしますと中西先生がまとめられました。